

6.3 資格チェック

6.3.1 ログオンチェック（業務資格チェック）

NACCS では、~~府省共通ポータルが発給し~~、NACCS センターが**発給**・管理・運営を行う利用者コード、識別番号、利用者パスワードを用いて、利用者の認証チェック及び、業務処理を行う資格があるかどうかのチェックを行う。

6.3.2 メールボックスへのアクセス資格チェック

メール処理方式では、上記「6.3.1 ログオンチェック（業務資格チェック）」に加え、NACCS センターが発給・管理・運営を行うメールボックス ID、メールボックスパスワードを用いて、利用者がメールボックスにアクセスする資格があるかどうかのチェックを行う。

6.3.3 処理結果電文(帳票用)の取得資格チェック

インタラクティブ処理方式（パソコン用パッケージソフトを使用）では、上記「6.3.1 ログオンチェック（業務資格チェック）」に加え、NACCS センターが発給・管理・運営を行う論理端末名と、システムが任意に付与する端末アクセスキーを用いて、利用者が処理結果電文(帳票用)を取得する資格があるかどうかのチェックを行う。

6.3.4 シングルサインオン

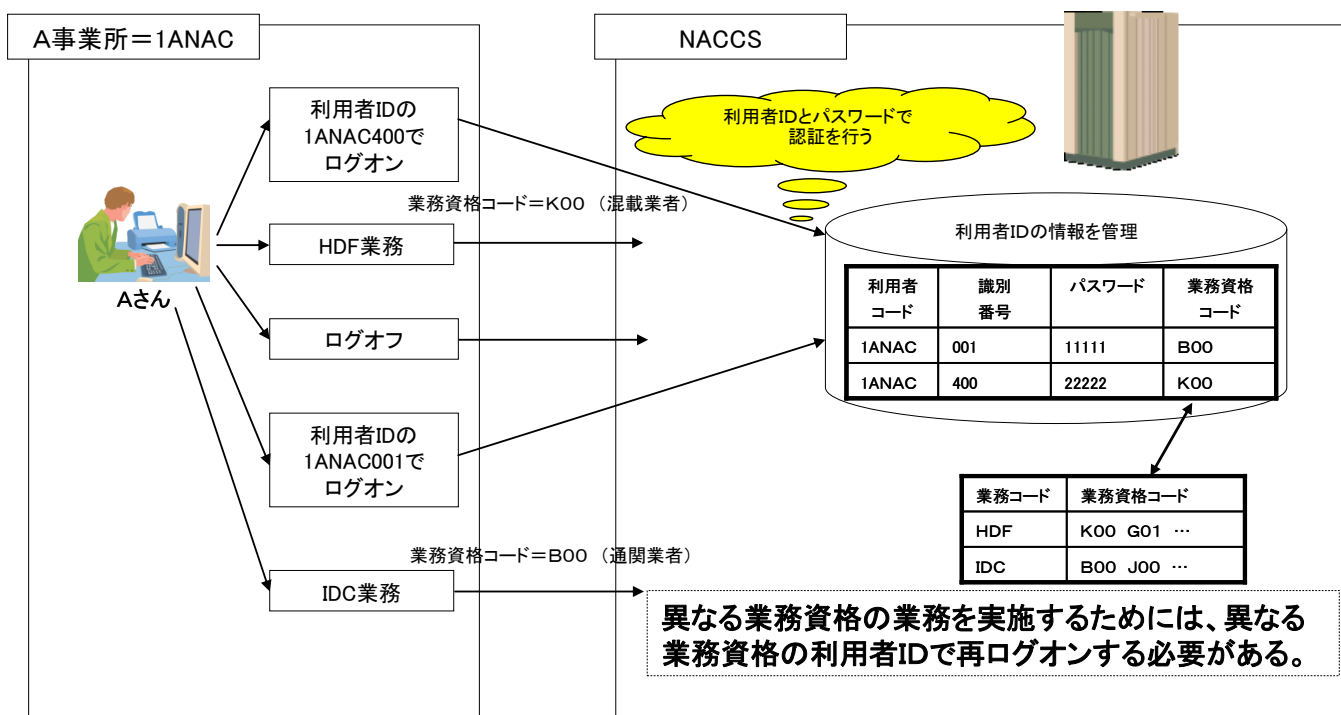
旧 NACCS で複数の認証が必要となっていた以下の場合について、本システムでは1度の認証（シングルサインオン）で業務が可能となるような機能を採用する。

6.3.4.1 複数業種を兼業する利用者のシングルサインオン

旧 NACCS では複数業種を兼業する利用者の場合、業務ごとに利用者コード+識別番号を変更してログオンしなおす必要があったが、本システムでは業務資格チェックを見直すことにより、1度のログオンで複数業種の業務を可能とする。

(注) 本システムにおいて複数業種を兼業する利用者は定められたグループ単位で、シングルサインオンを実現することが出来る。詳細は図 6-3-3 を参照。

図 6-3-1に旧 NACCS での業務イメージを、図 6-3-2に本システムでシングルサインオンを使用した場合の業務イメージを示す。



(注)「利用者ID」とは「利用者コード(5桁)」と「識別番号(3桁)」をあわせた8桁の体系のこと

図 6-3-1 旧 NACCS における複数業種を兼業する利用者の業務イメージ

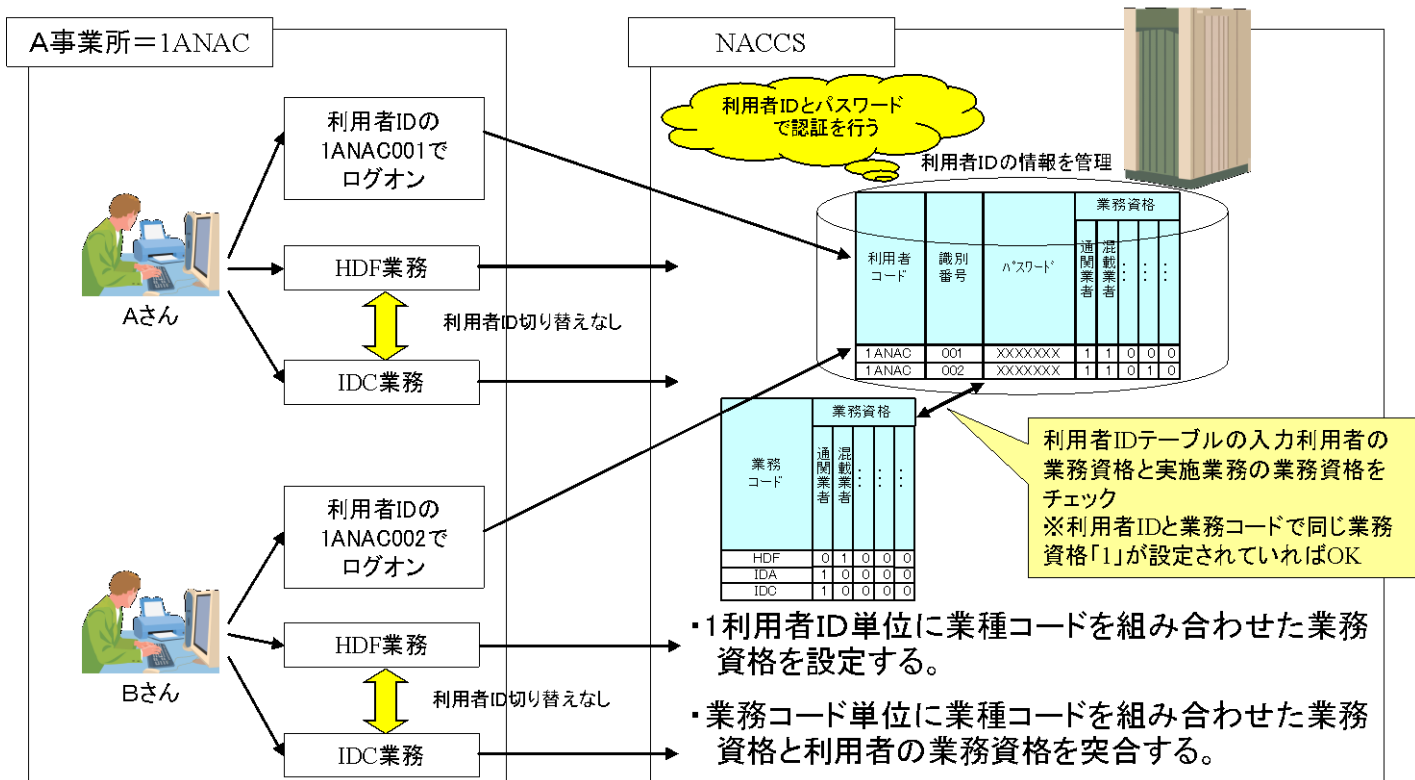


図 6-3-2 本システムにおける複数業種を兼業する利用者の業務イメージ
(シングルサインオンを使用した場合)

本システムにおいては、以下のグループ単位で複数業種を兼業する利用者のシングルサインオンを実現する。

(例：通関業と混載業を兼業する利用者は1度のログオンで2業種の業務が可能となる。ただし、通関業と船舶代理店を兼業する利用者はグループが異なるため2度のログオンが必要。)

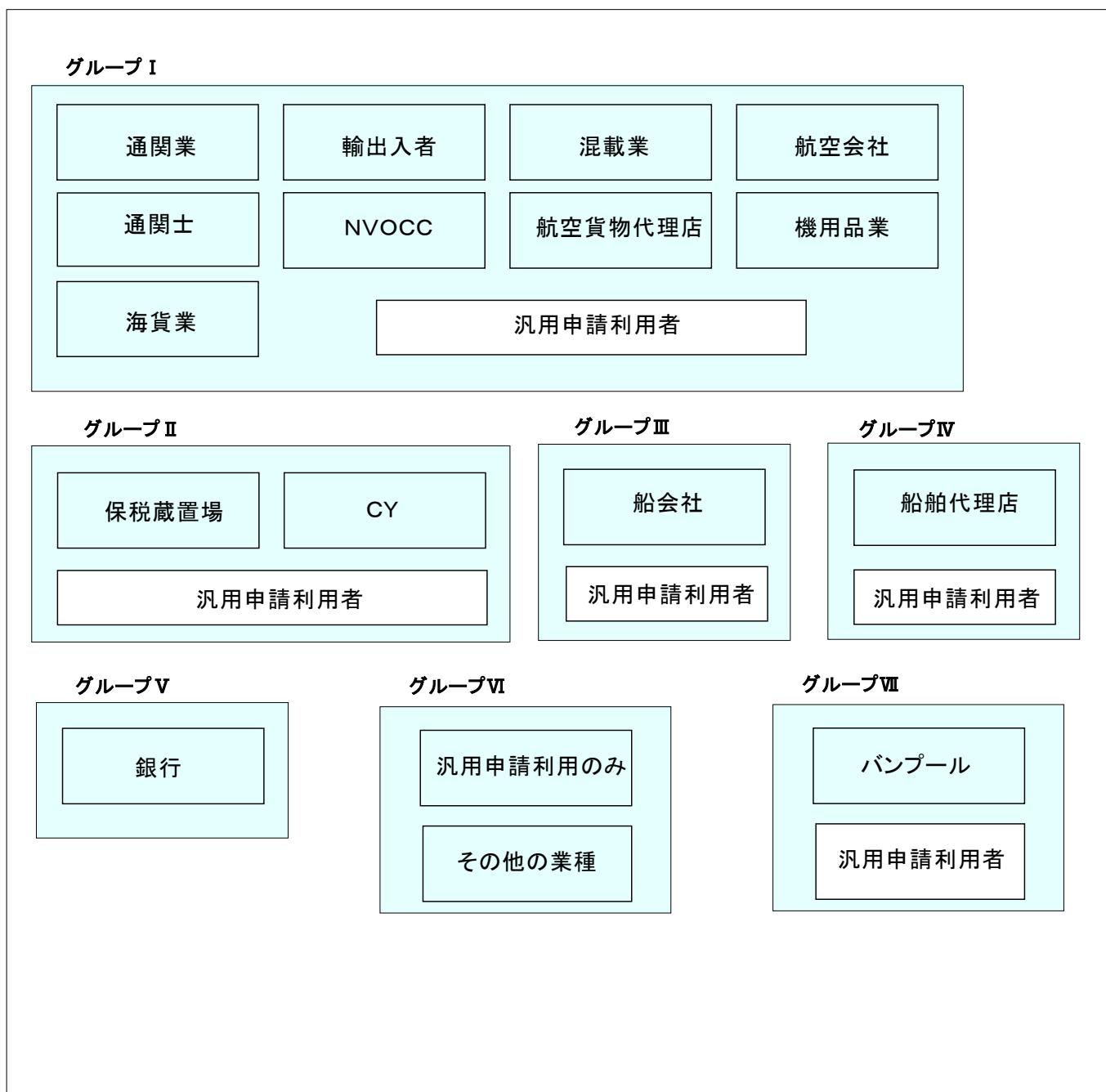


図 6-3-3 複数業種を兼業する利用者のシングルサインオンのグループ構成図

6.3.4.2 メール処理方式(パッケージソフトを使用)におけるシングルサインオン

旧 NACCS ではパッケージソフト メール処理方式の利用者は、NACCS へのログオン時に利用者とメールボックス ID に対する 2 種類の認証を行う必要があった。

本システムでは、パッケージソフト メール処理方式の利用者は、これまでの認証に加え、この 2 種類の認証を、1 つの ID/パスワードの入力で終了する方式を選択可能とする。

(利用者は利用者コード+識別番号ごとに、シングルサインオンを使用するかどうかを選択可能)

なお、シングルサインオンを使用する利用者は、利用者コード+識別番号に対応する一意のメールボックス ID を確保するため NACCS センターに予め申し込みを行う必要がある。

(1) ID について

① シングルサインオンを使用する場合

- ・利用者は利用者コード+識別番号をメールボックス ID として使用する。
- ・利用者コード+識別番号とメールボックスが 1 : 1 の関係となる。

この場合、メールボックスの共有は出来ない。

(この場合の宛先管理については、6.3.4.2 (3) を参照)

② シングルサインオンを使用しない場合 (旧 NACCS と同様)

- ・利用者は 2 つの ID (利用者コード+識別番号、メールボックス ID) を使用する。
- ・利用者コード+識別番号とメールボックスが多 : 多の関係となる。

この場合、メールボックスの共有が出来る。

(2) 認証について

パッケージソフト メール処理方式の利用者はログインダイアログ上でシングルサインオンを使用するかどうかを選択する。選択はログインダイアログ上の『メールボックス ID 入力を省略』チェックボックスにチェックを入れることで可能である。

図 6-3-4 にログインダイアログのイメージを示す。

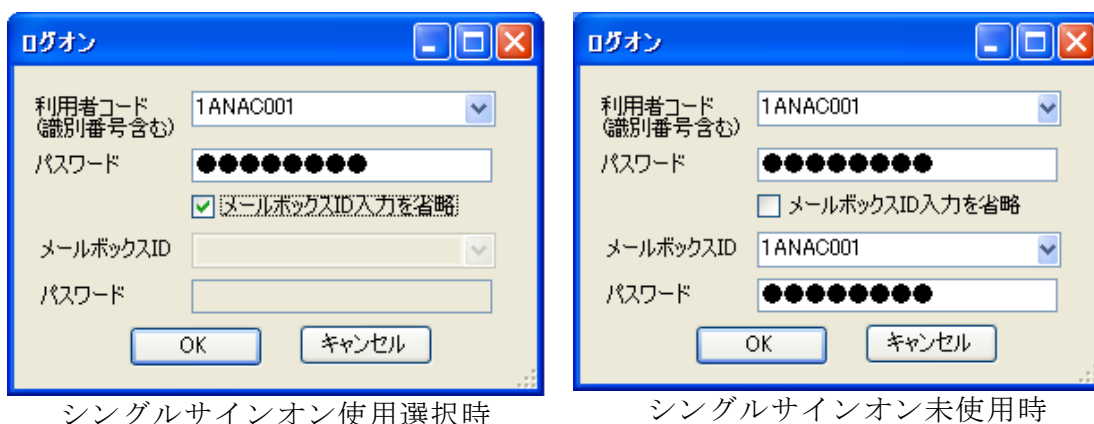


図 6-3-4 ログインダイアログのイメージ (シングルサインオン使用時/未使用時)

① シングルサインオンを使用する場合

- ・「メールボックス ID 入力を省略」チェックボックスにチェックを入れる。
- ・システムでは利用者コード+識別番号をメールボックス ID として、利用者パスワードをメールボックスパスワードとしてメールボックス認証を行う。

② シングルサインオンを使用しない場合 (旧 NACCS と同様)

- ・「メールボックス ID 入力を省略」チェックボックスにチェックを入れない。
- ・システムではログインダイアログに入力されたメールボックス ID とメールボックスパスワードを用いてメールボックス認証を行う。

どちらを選択した場合も、ログインダイアログボックスに入力された利用者コード+識別番号と利用者パスワード (処理要求電文中の利用者コード+識別番号と利用者パスワード) を用いて利用者の認証を行う。

以下にログイン時に『メールボックス ID 入力を省略』チェックボックスにチェックを入れずに、かつ以下の入力を行った場合の例を示す。

<例 1> メールボックス ID、PW の入力なし

⇒パッケージソフトで入力エラーとなる。

<例 2> 利用者 ID、PW に対応するメールボックス ID、PW を入力

⇒正常に認証される。

<例 3> 利用者 ID、PW に対応していないメールボックス ID、PW を入力

⇒メールボックス ID、PW の組み合わせが実存するメールボックスと合致している場合は、正常に認証される。(合致しない場合は認証エラーとなる)

(3) シングルサインオンを使用する利用者の宛先管理について



シングルサインオンを使用する利用者はINQ型、EXZ型電文に対し、基本的に宛先管理の設定を行う必要は無い。

- (A) システムではINQ型、EXZ型で宛先管理設定のない利用者については、シングルサインオン選択利用者とみなし、処理結果電文等を以下のメールアドレス向けに送信する。

『利用者コード+識別番号@MAIL.MAIN.NACCS.CUSTOMS』

シングルサインオンにおける宛先管理設定の例を図 6-3-5 に示す。

◆シングルサインオン

利用者ID	メールボックスID	メール型宛先管理テーブル
1ANAC001 	1ANAC001 	設定不要

シングルサインオン利用者のメールボックスIDを利用者IDに統合することで実現

図 6-3-5 シングルサインオンにおける宛先管理設定の例

(B) システムではINQ型の宛先管理の設定のされている利用者については、旧NACCSと同様、設定されているメールボックス IDをメールアドレスとして処理結果電文等を送信する。

ただし、メールボックス IDの共有をしている利用者は従来通りの宛先管理機能を用いて複数の利用者からの処理結果電文等を同一のメールボックス IDに格納することが可能である。

また、複数のメールボックスIDを保有する利用者は宛先管理の設定により出力情報ごとに格納先メールボックスを振り分けることが可能である。

メールボックスの共有の例を図6-3-6、メールボックスの複数保有の例を図6-3-7に示す。

◆メールボックスの共有

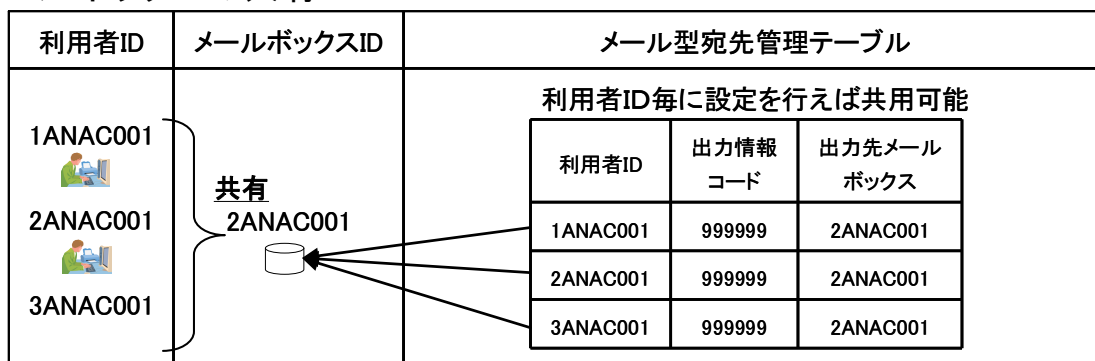
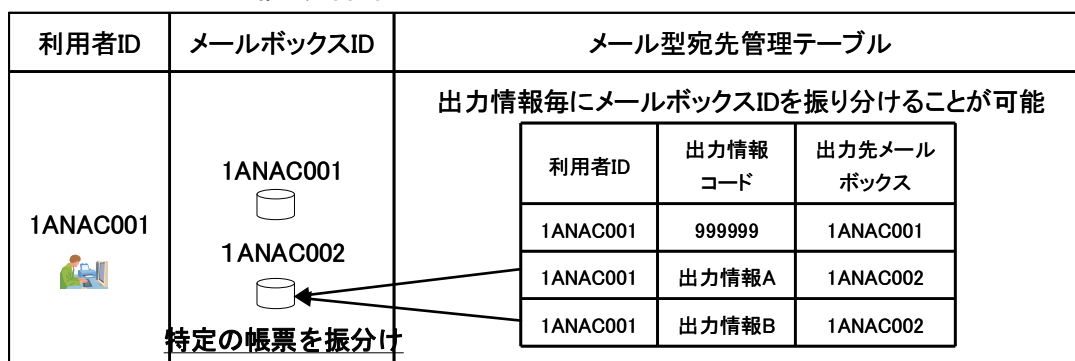


図 6-3-6 メールボックスの共有の例

◆メールボックスの複数保有



※シングルサインオンを使用しない利用者については、現行通りメールボックスを指定する
(メールボックスを共有することや複数保有することも可能)

図 6-3-7 メールボックスの複数保有の例

(4) メール処理方式(パッケージソフトを使用)におけるシングルサインオンのイメージ

メール処理方式(パッケージソフトを使用)におけるシングルサインオンのイメージを、
図 6-3-8 に示す。

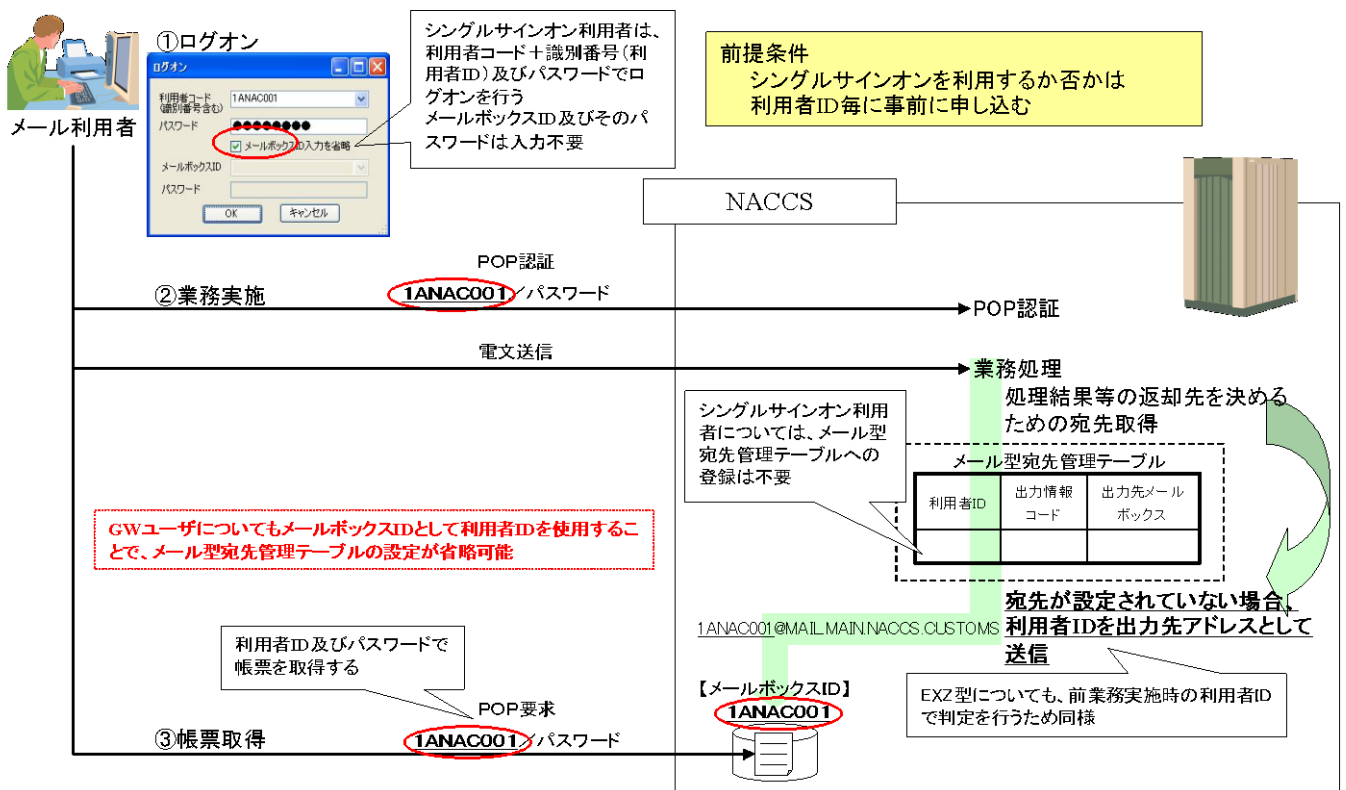


図 6-3-8 メール処理方式(パッケージソフトを使用)におけるシングルサインオンのイメージ

以下にメール処理方式におけるシングルサインオン選択利用者の使用例を示す。

＜例＞1 利用者 ID (1ANAC001) に対して 2 つのメールボックス (1ANAC001、1ANAC002) を所持している利用者が、頻繁に使用するメールボックス (1ANAC001) と、使用頻度の低いメールボックス (1ANAC002) を利用して業務を行う場合

頻繁に使用するメールボックス (1ANAC001) に対してはシングルサインオンを利用し、利用者コード+識別番号 (利用者 ID) 及びパスワードでログオンし、業務を行う。

(メールボックス ID 及びパスワードは入力不要。『メールボックス ID 入力を省略』チェックボックスにチェックを入れること。)

使用頻度の低いメールボックス (1ANAC002) に対しては通常のサインオンを利用し、利用者コード+識別番号 (利用者 ID) 及びパスワード、メールボックス ID 及びパスワードでログオンし、業務を行う。

(『メールボックス ID 入力を省略』チェックボックスのチェックを外すこと。)

メール利用者

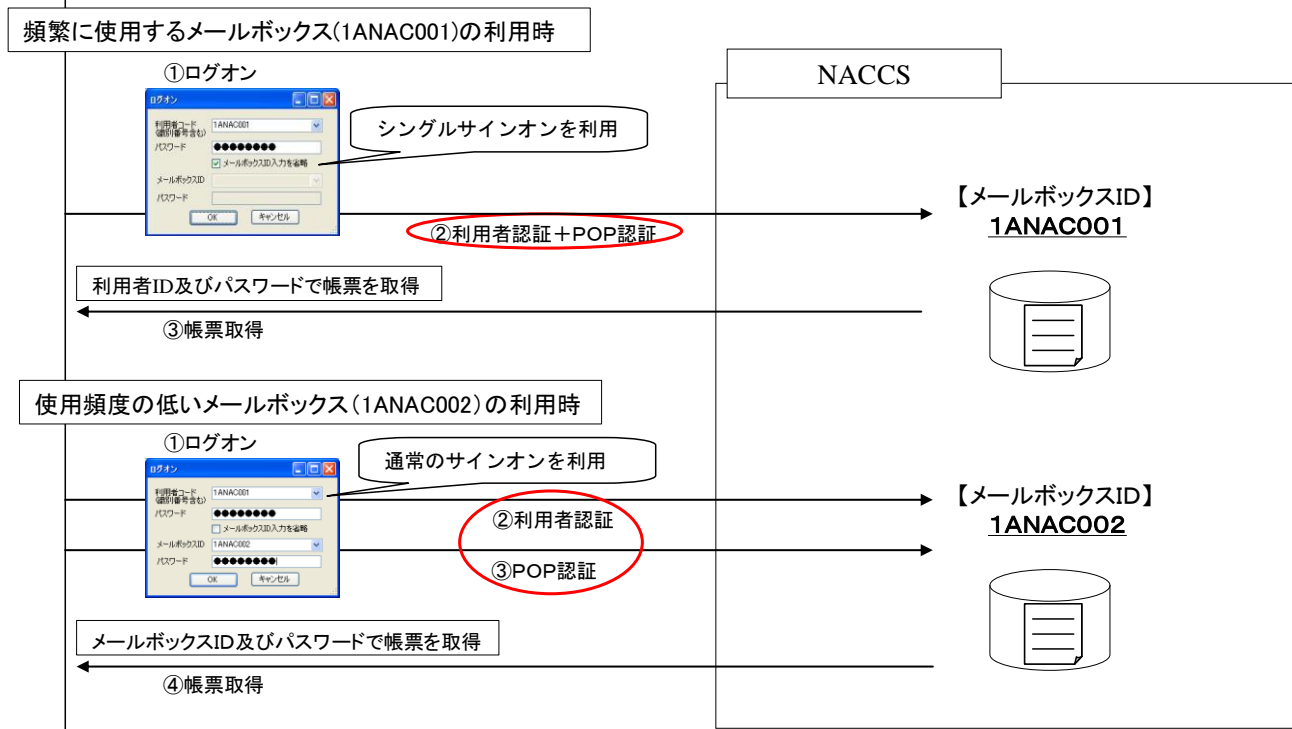


図 6-3-9 メール処理方式 (パッケージソフトを使用) におけるシングルサインオンの利用例

なお、メールボックス (1ANAC002) に出力情報の宛先を振り分ける必要があるため、利用者は事前に頻繁に利用するメールボックス (1ANAC001) で取り出しをしたい出力情報コードを指定し、宛先管理の設定をする必要がある。